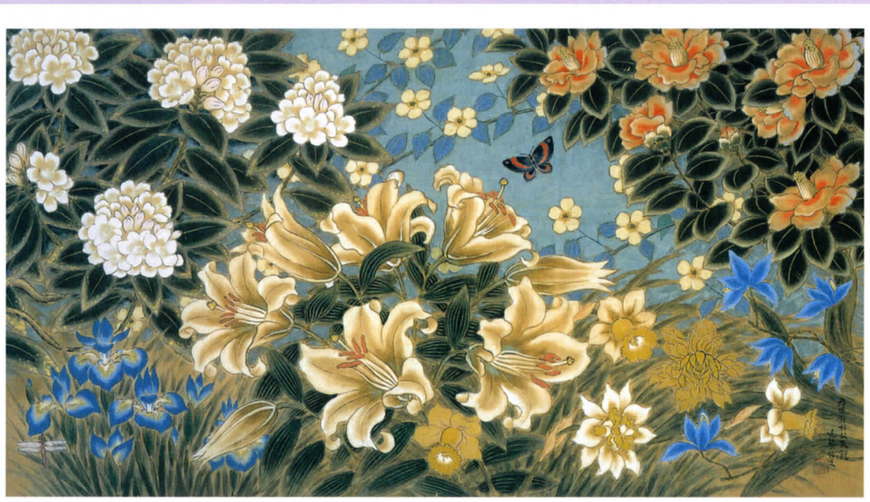
ORANGE

田辺市立美術館NEWS
Vol.6



野長瀬晩花《五月の花》　1956（昭和31）年　近野振興会蔵

絵画と出会う「この一点!」　田辺市立美術館

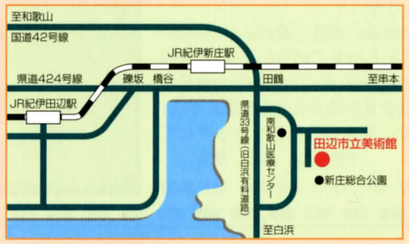
特別展　両洋の眼　会期:4月14日（土）～5月13日（日）

今年の『両洋の眼』展には2点の「特別出品」があります。昨年と今年に逝去された田中稔之氏と吉原英雄氏の作品です。両氏とも今年の『両洋の眼』展への出品のための新作は生前に完成されており、その作品が「特別出品」として展示されています。

図版の《二つの地平一残像19》の作者、吉原氏は今年1月に逝去されました。版画家としての活動がよく知られていますが、アクリル画、油彩画の制作も行っています。昨年初めて『両洋の眼』展に招待され、出品された《二つの地平一残像16》は「河北倫明賞」を受賞しました。今年の出品作もモノトーンの画面の中に都市の様々なドラマや思いが暗示される印象的な作品です。制作の主としたリトグラフ（石版画）の作品同様に都会的、現代的なセンスにあふれていますが、絵具による作品ならではのマチエール（絵肌）、色調によって画面が一層深い意味をおびたものに感じられます。　（学芸員　三谷　渉）

吉原英雄
（1931～2007）
《二つの地平一残像19》

利用案内



田辺市立美術館
〒646-0015 和歌山県田辺市たきない町24-43
TEL.0739-24-3770　FAX.0739-24-3771
JR紀伊田辺駅から明光バス「新庄病院前」下車、徒歩5分。

田辺市立美術館分館
熊野古道なかへち美術館
〒646-1402 和歌山県田辺市中辺路町近露892
TEL.0739-65-0390 FAX.0739-65-0393
JR紀伊田辺駅から龍神バス「なかへち美術館」下車。

美術館あれこれ⑤　著作権その2　美術と著作権

美術の著作物については、著作権法（以下「法」と呼びます）に基づく定められた条件の範囲内で下記のような利用が認められています。

1.美術作品の展示

美術の著作物には展示権が付与されている（法第25条）ので、その著作者（美術作品を作った人）が作ったものを展示するのに何ら問題はありません。また、美術の著作物等の原作品の所有者による展示行為も許容されている（法第45条）ので、美術作品を購入などにより取得した場合についても展示については自由に行えます。

2.公開の美術の著作物等の利用

建築物や屋外の場所に恒常的に設置されている美術の著作物（例えば公園の銅像とか）などは、自由に写真撮影したりテレビ放映したりすることができます（法第46条）。ただし、屋外彫刻のレプリカを作成したり、模倣建築を行うこと、美術の著作物の複製物を販売を目的として複製する場合（絵葉書や複製絵画など）は認められていません。

3.展覧会の小冊子などへの掲載

展覧会の開催者は、展示権（法第25条）に規定されている権利を害さない範囲内で、解説・紹介用の小冊子（展覧会カタログ、図録など）に、展示する著作物を掲載することができます。

これらはあくまでも原則的なものなので、自由に認められていると規定されているものであっても権利者の承諾が必要な場合もあれば、規定されていなくても許諾を得れば利用可能な場合もあります。要は著作権者の権利を害さないこと、ということです。
（学芸員　辰巳　充）

表紙作品紹介　野長瀬晩花《五月の花》1956（昭和31）年　近野振興会蔵

野長瀬晩花は10代半ばに当地より大阪・京都に出て絵を学び、晩年は東京で暮らしました。晩年近くになって再び郷里の人々との交流を楽しんだ晩花は、故郷の公民館新築を祝してこの《五月の花》を寄贈しました。友人に宛てた書簡には、故郷の一般の人々のためにと作品についての詳細な説明が綴られています。紙は京都の寺院などで使用される純日本紙の鳥の子を使い、絵の具は新しいものに全部胡粉を交ぜていること。花弁が大きいのは、広い場所のいくぶん高いところに揚げらえることを考慮してのこと。そして、「今時の若い人に言ったら笑われるでしょうが」と断りながら、魯山人が刻り、当時の天皇陛下ご成婚の時の献上画に初めて使用した縁起の良い印を落款に使用したと述べています。　（学芸員　山本　泰代）

編集後記

この号が出る頃には、当館の目の前の公園には様々な花が咲き、すっかり春の陽気に包まれ暖かくなっていることでしょう。春と言えば、また新しい年度が始まり、心機一転になります。この時期に公表される各地の美術館・博物館の新年度の展覧会スケジュールを楽しみにされている方も多いのではないでしょうか。田辺市立美術館・熊野古道なかへち美術館の展覧会にも、ぜひご注目下さい。皆様のご来館をお待ちしています。（本館 Y.M.）

田辺市立美術館NEWS
ORANGE Vol.6
発行年月日:平成19年4月1日
編集・発行:田辺市立美術館
熊野古道なかへち美術館

両洋の眼

田辺市立美術館での『両洋の眼』展の開催は今回で7回目となります。ここのところの隔年の開催を楽しみにされている旨の声も聞くことがあり、嬉しく思っています。ここでもう一度『両洋の眼』展の内容を振り返っておきたいと思います。

『両洋の眼』展自体は1990(平成2)年の第1回展以来毎年開催されており、今年で18回目の開催となります。西洋の眼でも東洋の眼でもない、その両洋を貫通する眼を意味する展覧会の名前の通り、日本画、洋画といった区別を取り払い、大家から新進の画家まで、現代の注目すべき作家を一線で活躍する評論家が選抜してその新作を一堂に展覧するという内容は、他に類のないものとして年々注目の度合いが高まっています。

今年の出品作家の選抜は両洋の眼委員会の5名、富山秀男(委員長・美術評論家)、草薙奈津子(平塚市美術館館長)、瀧悌三(美術評論家)、藤慶之(美術ジャーナリスト)、米倉守(多摩美術大学教授・松本市美術館館長)で行われました。またこの展覧会の発足と運営に最も大きな力があり、1995(平成7)年に逝去された美術評論家、河北倫明氏の名を冠した賞の選考が、毎年1月に実際に出品される作品を前にしての委員と開催会場の担当者との投票によって行われます(今年は青木敏郎、安西大、河嶋淳司の三名が受賞)。

今年は当館も含めて四館の公立美術館での開催が決まっています(他に百貨店二会場で開催)。山梨県の河口湖美術館は1994(平成6)年から毎年の開催、宮崎県立美術館は今年初めての開催、青森県の八戸市美術館は一昨年初めて開催し、今年が2回目の開催となります。現代の絵画の状況を充実した作品で紹介できるこの展覧会を評価して展覧会のスケジュールに組み入れる美術館が増えています。

(学芸員　三谷　渉)

今年の『両洋の眼』展の図録。毎回図録の表紙には『両洋の眼』のシンボルマークがレイアウトされる。販売価格1,800円。
※過去の図録も販売 しています。

今年の「河北倫明賞」受賞作の一つ
安西大(1970〜)《白蓮華図―楽園―》

INFORMATION

会　　期／4月14日(土)〜5月13日(日)
開館時間／午前10時〜午後5時(入館は午後4時30分まで)
休 館 日／毎週月曜日(但し4月30日は開館)・5月1日(火)
主　　催／田辺市立美術館・両洋の眼委員会
後　　援／毎日放送
協　　力／アミューズ・東邦アート・東京マルイ美術
観 覧 料／一般 600円(480円) 大学・高校生 300円(240円) 中学・小学生 150円(100円)
※(　)内は20名以上の団体料金。
土曜日は中学・小学生及び同伴する保護者や指導者の観覧料は無料です。
一部展示替を行います。〔前期:4月13日〜4月30日 後期:5月2日〜5月13日〕

◎「国際博物館の日」記念公開対談を開催します。
4月28日(土)午後2時より当館研修室(観覧料のみ必要。手話通訳もつきます。)
藤慶之(両洋の眼委員)×元永定正(両洋の眼出品作家)

平成19年度展覧会案内

■ 田辺市立美術館

H.19 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H.20 1月	2月	3月
①特別展 両洋の眼 4/14(土)〜 5/13(日)	展示替のため休館	②小企画展 近代洋画 館蔵作品展 6/2(土)〜 7/16(月・祝)	展示替のため休館	③特別展 森のなかで 7/28(土)〜10/8(月・祝)		展示替のため休館	④特別展 創画会60年展 (前期) 10/20(土)〜11/18(日) (後期) 11/23(金・祝)〜12/24(日・祝) 展示替のため休館 11/19(月)〜11/22(木)	展示替のため休館及び年末年始休館	⑤小企画展 近世・近代の郷土画人たち (展示室1.2コレクション展示) (前期) 1/12(土)〜2/11(月・祝) (後期) 2/16(土)〜3/23(日) 展示替のため休館 2/12(火)〜2/15(金)		

■ 熊野古道なかへち美術館

H.19 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H.20 1月	2月	3月
①館蔵品展 野長瀬晩花展 4/14(土)〜6/3(日)		展示替のため休館		②特別展 森のなかで 7/28(土)〜10/8(月・祝)		展示替のため休館	③館蔵品展 渡瀬凌雲展 (前期) 10/27(土)〜11/25(日) (後期) 12/1(土)〜1/14(月) 展示替のため休館 11/26(月)〜11/30(金) 年末年始休館 12/28(金)〜1/4(金)		展示替及び資料整理のため休館		③館蔵品展 雑賀清子展 3/1(土)〜 4/13(日)

展覧会紹介

特別展「森のなかで」 7月28日(土)〜10月8日(月・祝)

展示方法の打合せを栗田宏一氏と。 2007.1.5　熊野古道なかへち美術館

森は多くの生命が誕生し、土に還り、また再生する場所であり、生命の不思議や宇宙の有り様について私たちに何かを語りかけてきます。いっぽう和歌山は豊かな森と熊野古道を擁し、南方熊楠を生んでいます。この展覧会では、和歌山県の3美術館(和歌山県立近代美術館、田辺市立美術館、熊野古道なかへち美術館)が共同して、絵画・彫刻・写真・音など様々なジャンルにおいて森からのメッセージをかたちとしている作家たちの作品を紹介します。出品作家による講演会、ワークショップなども予定しています。

館蔵品展　「野長瀬晩花展」 4月14日(土)〜6月3日(日)

晩花のこだわり

1903(明治36)年、絵を学ぶために14歳の野長瀬弘男(後の晩花)は大阪の中川蘆月の家に住み込み、先生のもとで運筆練習や写生などの基礎勉強をしました。この時代にはいつも和服姿で、真っ赤な羽二重の風呂敷を持って悠然と歩く姿が人目を惹いたといいます。人々はその風貌や言動から彼を「風変わりな男」と呼びました。この10代半ばから交流のあった秦テルヲ、夜な夜な祇園に繰り出した仲間竹久夢二、国画創作協会を一緒に創立した土田麦僊や小野竹喬たちとの交流から、また前衛的な画家たちとのグループ活動から、晩花独特の個性は作られたのでしょうか。

本展では当館所蔵の作品と資料より、晩花の画家としてのこだわりをご紹介します。異色の画家と呼ばれ、自分らしさにこだわった晩花の個性がどこから生まれるのか、その交友関係、作風や画材などに見えるこだわりから探してみる試みです。　(学芸員　山本　泰代)

《戻り橋》 1917(大正6)年　野長瀬晩花

REPORT 【田辺市立美術館開館10周年記念特別展『近代日本絵画の諸相』】

昨年開館から10周年を迎えた田辺市立美術館(1996年11月1日開館)ではこれを記念した特別展『近代日本絵画の諸相』を昨年の9月から今年の3月にかけて開催しました。作品収集の柱の一つとしている近代日本の絵画の世界を「水彩画の近代」、「日本画の個性」、「表現主義の流れ」、「写実と抽象」の4つの章によってうかがう内容で、それぞれの章を独立した展覧会として開催しました。この内「日本画の個性」は、大正期に日本画の新しい表現を拓いた画家、野長瀬晩花(田辺市中辺路町出身:1889〜1964)の作品の収集を進めてきた熊野古道なかへち美術館との共催で行いました。出品作品の総数は185点になりましたが、その70%にあたる128点の作品は田辺市立美術館・熊野古道なかへち美術館の所蔵品及び寄託品でした。近代日本における絵画表現の展開の大きな潮流を紹介するとともに、収集を進めてきた作品がその中においてどのような位置にあるのかについても改めて展覧会という何よりの形で示すことができたのではないかと思います。　(学芸員　三谷　渉)

会場で無料で配布した『近代日本絵画の諸相』展の解説冊子
(各章1冊/A4サイズ・14ページ)
※残部もありますので、ご入用の方はお問い合わせ下さい。

REPORT 【水谷川優子と仲間たち〜クラシックコンサート〜】

【日時】平成18年9月2日(土)　【場所】熊野古道なかへち美術館展示室

美術館開放講座は、芸術の面白さや豊かさを色々な角度から知っていただいたり体験したりしていただく講座です。

昨年9月2日には、クラシックコンサート「水谷川優子と仲間たち」を開催致しました。世界で活躍中の3人(水谷川優子さん、アルバート・ロトさん、マーク・ゴトーニさん)で構成された、チェロを中心としたトリオの演奏会は、当地熊野ではめったに聴く機会のない貴重なものです。

展示室の音響を整え、くつろいでいただくために、演奏会はいつも座布団コンサート。150名ほど集合すると素晴らしいコンサートホールになりますが、今回多くの申し込みの中から先着180名の皆様に鑑賞していただきました。

プログラムは、水谷川優子さんのチェロで、バッハの無伴奏チェロ組曲から始まりモーツァルトやベートーベンのソナタ、アンコールにはカザルスの鳥の歌・・・というこの上なく贅沢な選曲。一流の演奏と演奏者3人の素晴らしいお人柄に触れ、感動の2時間でした。　(学芸員　山本　泰代)

演奏家は左からバイオリニストのマーク・ゴトーニさん、
ピアニストのアルバート・ロトさん、チェリストの水谷川優子さん。